

例 言

- 1, 本書は、西隆寺跡調査委員会の指導のもと、奈良国立文化財研究所および奈良県教育委員会が共同しておこなった西隆寺跡発掘調査の報告書である。
- 2, 本書には、1971年3月から1973年7月にかけておこなった6次分の発掘調査結果を収録している。
- 3, 調査にあたっては、株式会社ダイヤモンドファミリー、株式会社第一勧業銀行、株式会社太陽神戸銀行、三和住宅株式会社、学校法人正強学園、住友信託銀行株式会社の各位の協力を得た。
- 4, 報告書の作成には、主として奈良国立文化財研究所があたり、調査員相互の討議をもとにそれぞれが分担執筆した。なお各章節の執筆者は以下のとおりである。

I 1—狩野久, I 1・III 1・V 1—村上詔一, I 2・II 3・III 2・III 5・IV 4・IV 5・V 1・V 2・V 3—黒崎直, II 1・II 2—石野博信, III 2・IV 3・IV 5・V 3—甲斐忠彦, III 2・III 5—岩本圭輔, III 3—藤原武二, III 4—菅原正明, IV 1・V 4—東野治之・今泉隆雄, IV 2・V 3—岡本東三, IV 3—西弘海, IV 3・V 3—小笠原好彦・吉田恵二。
- 5, 遺構・遺物の写真は佃幹雄が撮影し、図版の作成には八幡扶桑・渡辺衆芳の助力があった。図面・挿図の作成は各執筆者が担当したが、他に岡田英男・中村雅治の助力があった。
- 6, 本書では、写真・実測図に共通する遺物番号を付し、本文中にもこの番号をもちいた。
- 7, 本書の編集には、黒崎直があたった。